

## 第2回(仮称)地域活性化発信交流拠点基本計画策定検討委員会 議事録

1. 日 時:令和6年8月5日(月)15:00~17:00

2. 場 所:役場 301会議室

3. 出席者:八木信行委員、伊藤徹哉委員、宮田佳律委員、有村誠委員、田畑和樹委員、浅沼克己委員、飯塚結花委員、林伊佐雄委員(オブザーバー)、岡崎優委員(オブザーバー)、中島豪誠委員(オブザーバー)

事務局 総合調整幹 近藤拓一郎 道路交通課 課長 若林崇幸 主幹 古寺克行  
主査 小原巴志 主任 白石直也

受託事業者 三井共同建設コンサルタント株式会社

4. 傍聴の可否について

検討委員会の傍聴を可とする。傍聴者 1名

5. 議 事:

(1)第1回(仮称)地域活性化発信交流拠点基本計画策定検討委員会実施報告

(2)利用ニーズ調査結果について

(3)導入機能(案)について

6.議事内容

【議事(1)について】

事務局より第1回検討委員会の実施報告を行い、質疑や意見の有無を確認。

<意見なし>

【議事(2)について】

(仮称)地域活性化発信交流拠点の主な利用者を想定し実施した利用ニーズ調査結果を説明し、質疑や意見の有無を確認。

- ・休憩機能や飲食機能は共通して需要が高いことがわかった。
- ・「世界農業遺産」は、認知度が低いことが課題であり、拠点を利用した PR が必要となる。
- ・三芳 PA(上下線)では時間帯により混雑がみられ買い物等に影響が生じる場合がある。そのため、拠点整備には三芳 PA そのものの混雑緩和に対する高い需要が見込まれる。
- ・三芳スマート IC から高速道路本線の渋滞解消を優先的に行うことが拠点にとっても効果的であると考え。そのため渋滞対策を検討し、拠点の配置計画のなかで出入口等の動線を含め検討する。

### 【議事(3)について】

利用ニーズ調査結果から見えてきた拠点のあり方と利用者層をもとに、求められる導入機能(案)を説明し、質疑や意見の有無を確認。

- ・導入機能は、アンケート結果と整合性があるものが望ましく、三芳町が持つブランドイメージを明確にし、各コンテンツに統一感を持たせた整備の検討が望ましい。
- ・温浴機能を整備する場合、三芳町のブランドイメージと統一感のあるものが望ましい。
- ・拠点の整備だけでなく、周辺地域や高速道路利用者との関わりが重要である。
- ・拠点に整備する施設だけでなく、拠点外の資産を有効活用し連携する方針が良い。
- ・三芳町は読書のまちであるため、図書館ほどの規模でなくても図書に触れる場の整備が望ましい。
- ・農業体験はプログラムを作成し一貫的な体験が可能なものが望ましい。周辺の農地などとも連携して体験機能の充実が図ればよいと考える。
- ・農業・里山体験機能として、落ち葉堆肥→体験農園→収穫体験→農家レストランのように町の伝統農法を交えることで学習の場としても活用でき農業の認知度や興味が高まる。
- ・拠点では三芳町の農産物をPRする観点から、みよし野菜だけを販売することが望ましい。
- ・拠点で農作物を販売する方法として、日常利用に対しては安価な農作物、お土産利用に対してはブランド品や加工品など切り分けることでブランドの価格、付加価値の向上を図るのはどうか。
- ・休日だけでなく、平日も集客が見込めるコンテンツの検討が望ましい。

### 【その他(①民間事業者ヒアリングについて)】

現在ヒアリング中であり、今後も道の駅の事業運営を行っている事業者へのヒアリングを予定している。

- ・民間事業者ヒアリング候補先の提案として、主に下記が挙げられる。
  - ① 食や自然に特化した事業者
  - ② 農業者レストラン経営に長けている事業者
- ・新潟県直送の水産物は専門業者が入らないと難しい。また、流通経路の確保も課題である。

### 【その他(②拠点と三芳 PA 下りの一体的整備について)】

・株式会社ネクスコ東日本エリアトラクトの現状の考えとして、三芳PA下りの商業施設も改築を検討する段階であり、高速道路利用者の休憩機能として、本拠点の計画と連携して取り組みたい。

三芳PA下りは東京を出発地として目的地に向かう利用者が多く、長時間の滞在は見込めないため、上り方面の利用者の取り込みも重要と考える。

以上